

パウロの回心

パウロがどういう経路でキリスト教に回心したのか、そして伝道を進めていったのかをお話します。そのパウロがいたので、キリスト教が世界的に広まりました。12弟子は、イエス様の教えを世界的に広めるとい意識はあまりなく、ユダヤの人に伝えるという次元でしかありませんでした。よってキリスト教が広まった功労者はパウロであると言えます。しかし最初は、キリスト教信者を見つけてはやめせることに喜びを感じていたのがパウロでした。しかし、ダマスコに出かけて行ったときにイエス様と霊的に出会いました。まぶしい光に目が見えなくなってしまう、その中でイエス様の声を聞いたのです。様々な体験をしながら、自分の活動が間違っていたのではないかと気付き、キリスト教に回心していくわけです。それは神側の人物であるステパノの殉教によって信仰を立てたことにより神が働き、パウロを神側に導く条件になったのです。またそれを条件として霊的な役事がパウロにあったのです。パウロは生涯にわたって伝道旅行を3回行いました。哲学者と論争しながら、伝道資金に関しては TENT を作る仕事をしながら自分で稼いでいました。それほど収入はなかったので苦労した人だという事になります。12弟子とはあまり仲が良くありませんでした。イエス様が亡くなった後にパウロは来ているので、あまり知らないのです。12弟子はイエス様を知っていたので、天のみ旨から見ればいかに一つになるかという事が重要でした。

申命記に木に架けられたものは神から逃れた者という部分があります。パウロは腑に落ちなかったのですが、最終的に十字架による救いを説いて行きます。そして、人間の能力に封印しているのが、自分であるのです。生まれるべくして生まれた自分であること、自信を持つべきです。天一国は二人が一つになって入るところです。家庭が必要なのです。家庭単位で、基元節を迎えて変わっている事を実感する事が大切です。

壮年は天使長の立場でしたが、本来のアダムに変わらないといけない時代です。その象徴が彩の国ファーズであるのです。実感するには行動すれば結果として実ってきます。主体的なものが求められます。実体基台がなければ、霊的役事がいくらあっても、元に戻ってしまいます。天一国時代はそんなことを考えながら天の願う基準にしていけたらと思います。

本教会の礼拝に初めて参加された方を心から歓迎いたします
天の父母様と真の御父母様の祝福が共にありますようお祈り致します

- 1、お誕生日を迎えた食口の皆様、おめでとうございます。
- 2、真の父母様聖和一周年記念 100 日精誠祈禱会
期間：陽5.16～陽8.23 朝の9:30の出発式と17:00に祈禱会
(毎週金曜日と日曜日は17:00祈禱会は行いません)
場所：浦和教会
- 3、2013年伝道勝利のための「第3次50日路程」
路程期間：2013年7月2日(火)～8月20日(火)(50日間)
①「祝福式」の開催②「2日修練会」の開催③「礼拝」の活性化
④「十一条献金」の推進⑤「聖和1周年追慕礼拝」への新規動員
- 4、天一国經典天聖經、平和経日本語出版記念式
日時：8月24日午前8:00～11:00頃まで
場所：天正宮博物館2F
- 5、天一国フェスティバル大会準備委員会
②日時：8月16日(金)15:00～
参加対象：牧会者、婦人部長、関係スタッフ
- 6、夏休み特別企画!!親子サマーセミナー (通い2day)
日時：8月10日(土)～11日(日)AM10:00～18:00予定
講師：田川 敏部長
会場：岩槻東口コミュニティセンター多目的ルームC
会費：大人3,000円 高校生以下2,000円
参加：親子(父母、中学生以上)
- 7、東埼玉教区壮年合唱練習
日時：8月11日(日)15:00～
場所：浦和教会礼拝堂
- 8、『天一国フェスティバル』のご案内
日時：8月18日(日)13:30開演
場所：埼玉会館大ホール
- 9、自叙伝書写大会
日時：8月20日(木)10:30～
場所：カルチャセンター
- 10、健康講演会のご案内
日時：8月29日(木)10:30～
場所：浦和教会サロン

【年頭標語】

天地人真の父母勝利解放完成時代 天 基 元 年 天 曆 七 月 五 日

天地人真の父母勝利解放完成時代



浦和教会

Holy Spirit Association For Unification
of World Christianity Urawa Church
世界基督教統一神霊協会

教区長：李 炯燮 牧師

さいたま市南区南浦和1丁目23-12
Tel : 048-886-8774 / Fax : 048-886-8797
E-mail : uc.urawa@gmail.com

式次第



執礼者：徳野英治会長

司会者：赤岩弘一伝道部長

開 会	司会者
黙 禱	全 体
※開会讃頌 天一国の歌	全 体
※敬 拝	全 体
※家庭盟誓	全 体
代表祈禱	吉田 聖
讃 頌	聖歌隊
説 教 (DVD)		
真のお父様聖和一周年に向けて前進していきましょう		
※讃 頌 聖歌 20番	全 体
※全体祈禱	全 体
教会音信	司会者
閉 会	司会者

～お願い～ ※印のある項目は、全員起立して進行します。

『 生めよ、殖えよ、地に満ちよ 』

百個の団子

昔、あるところに若い夫婦が二人で住んでおったそう。結婚当初は仲睦まじい夫婦だったが、実は亭主が大変な酒癖の持ち主だった。お酒を一口でも飲もうものなら、急に人が変わったように大酒飲みになって周りの人に暴力をふるうのじゃ。嫁は亭主のあまりの変貌に恐れ、別れることもできずに忍耐しておったそう。しかし、毎晩酒を飲み、帰りも遅く、亭主が帰ってくれば叩かれ殴られる嫁の忍耐も限界に来てしまった。「この亭主、何とかしたい、殺したい、亡き者にしたい」という恐ろしい思いが湧いてくるようになった。

誰にも相談できず、思いあぐねた嫁は、村はずれにあるお地蔵様に自分の胸の内を打ち明けに行ったそう。「お地蔵様、お地蔵様。大酒飲みの亭主の暴力に何年も耐えてきましたが、ほとんど疲れました。今では自分の亭主を殺そうという、恐ろしい思いが湧いてきます。でも人を殺めることは出来ません。

いつのまにか、いなくなったら良いと思うようになりました。どうかこの可愛そうな女の願いを聞いてください。」と嫁は祈ったところ、お地蔵様は答えたそう。「女よ、おまえの願いをかなえてやろう。今から教える草の葉で団子を作り、毎日一個、お前の殺したい夫に食べさせなさい。百個目の団子を食べたとき、お前の憎い夫は消えていなくなるだろう。」嫁は翌朝、日の出とともに山に入り、言われた通りの草の葉を採り、団子を作って朝の食事と一緒に出した。ところが亭主は団子は嫌いだと言うので食べてくれん。嫁はこれではいつまで経っても百個を食べることが出来ないと思い、お地蔵様に相談に行った。「お地蔵様、お地蔵様。どうしたら亭主に私が作った団子を食べさせることが出来るでしょうか。」お地蔵様は答えて言った。「夫が気持ちよく朝起きて、食事をさせるためには、笑顔でやさしく語りかけることじゃ。それから、ほれ、女の髪は命じゃ。お前のようにスズメの巣のような頭では亭主も気分が悪い。亭主が起きる前に必ず髪をとき、顔を洗っておくのじゃ。」嫁は夕方亭主が帰ってくる前に顔を洗い髪を整え、そして笑顔でやさしく出迎えた。いつもはブスッとしている亭主も気分が良くなり、嫁が作った団子を食べてくれた。その後、亭主は何日間はだんごを食べたが、また、食べてくれんようになった。嫁はまた、お地蔵様に相談に行った。「話しをするときは亭主の手をそっと取り、笑顔で話し掛けるんじゃ」また、別の日には「夫の話しに感心して相槌を打つ」「帰ってきたら、お疲れ様と三つ指突いて出迎える」とあるごとに嫁がお地蔵様をたずねに行くと、そのたびにお地蔵様は丁寧に教えてくださった。

嫁はお地蔵様に言われたように今まで以上に良い妻を演じて、憎くて殺したい夫に毒入り団子を食べ続けさせた。4、50日ほどすると、あの毎晩飲んだくれていた亭主が早く帰ってくるようになった。時にはどこそこに行ったからと手土産を買ってきてくれるようになった。そして嫁の作る食事も美味しい、美味しいと食べ、夕食に付ける特製だんごも大好物になって残さず食べてくれるようになった。90個を越えた頃から嫁の心も変わってきた。

今までは百個目のだんごを食べさせれば、あの憎くて殺してやりたい亭主がいなくなるんだと、団子を作るのが楽しくて、早く百個目のだんごを食べさせたくてワクワクしていた自分だったのに。。。今は毒入り団子を作る手に力が入りません。あの飲んだくれの亭主はもういないのか？ いやいや、今は酒を飲んでいないだけ。また酒が一滴でも入れれば大暴れするに違いない。自分が本当に幸せになるのは今の亭主がいなくなることで、自分に言い聞かせてだんごを作り続けた。そして百個目のだんご。亭主はその日もやさしい嫁に早く会いたくて、夕方飛ぶように帰ってきた。その日が自分の命日になるとも知らずに。亭主は嫁が作った美味しいだんごを食べることが日課になっていたから早くだんごが食べたい。しかし嫁は百個目のだんごを作りはしたが、食べさせたくない思いが湧いてきた。「これを食べたら死んでしまう、苦しむんだろうか？ 痛いんだろうか？ 消えてしまうとお地蔵様はおっしゃったが、跡形もなくなるんだろうか？」嫁は殺すことを思いとどまってだんごを戸棚に隠した。ところが嫁がちょっと席をはずした時に、亭主はその団子を見つけて食べてしまった！ <<ああー！ー！>>

それを見た嫁は泣き崩れてしまった。亭主は泣き崩れる嫁を抱きかかえて、どうした、どこか痛いのか？ 悪いものでも食ったのか？ と、やさしく介抱する。なんと亭主は死んではいなかった。嫁は抱きかかえている亭主の腕を振り解き、急いで村はずれのお地蔵様に向かって走った。「どうして？ なぜ？ なぜ？ ...」

「お地蔵様！ お地蔵様！ 百個目のだんごを食べたうちの亭主は死にませんでしたよ！」「なんだ、そんなに早く殺したい男なのかい？」「いえ、違うんです！ 食べた毒を消す方法を教えて欲しいんです！」「ハハハ、あれはただのヨモギだんごじゃよ」「そうです！ ヨモギだんごに似せた毒入り団子です！」「いやいや、毒など入っておらん。あれを食べたからと言って死ぬことはない」「え？！ お地蔵様はあたしをだましたんですか？！」「お前の願いはすでに叶ったのではないか？ 酒癖の悪い乱暴なお前の亭主はもう消えてなくなったであろう？ それとも本当にあの夫を今でも殺して欲しいのか？」嫁は首を横に振って泣き伏してしまいました。

「それに、ほれ、御仏の代身のわしに殺生はできんのじゃよ。」